

∈YΩ solo exhibition “mapocy”

会期：2025年10月9日（木）～10月29日（水）

会場：SAI



SAI では、2025 年 10 月 9 日から 29 日までの期間、1980 年代から現在に至るまで、音楽・パフォーマンス・思想・映像・ビジュアルアートといった枠にとらわれない多様な表現を通じて、数々の伝説を築き、世界的なアートおよびアンダーグラウンド・シーンに多大な影響を与え続けるアーティスト、∈YΩ(ボアダムス)による展覧会を開催いたします。

∈YΩは 1986 年に伝説的バンド「BOREDOMS (ボアダムス)」を結成。ニルヴァーナのオープニングアクトやソニック・ユースとの共演を機にアメリカへ進出し、世界のアンダーグラウンド音楽シーンで確固たる地位を築きました。その後もボアダムスの中心メンバーとして実験的なパフォーマンスを展開し、2007 年にはニューヨークで 77 人のドラマーによる「77 BOA DRUM」、2008 年にはロサンゼルスで「88 BOA DRUM」を開催。昨年、2024 年には荒川で 200 人のシンパラーと共に「Arv100」を開催するなど、音楽表現の可能性を大きく拡張させてきました。2021 年には新プロジェクト「FINALBY()」を始動。映像・音・ヴィジュアル空間を一体化させた、新たな表現ステージに挑んでいます。

また、∈YΩは音楽活動にとどまらず、ビジュアルアーティストとしても活躍。1990 年代以降、数多くのアートワークを発表してきました。SAI での展覧会は、2019 年「レコーン」BLOCK HOUSE、2023 年「UNATAMITLE」HARUKAITO by island に続くものとなります。

音、パフィーマンス、アートワークを通して、私たちの目の前に広がる世界には多元的なものの捉え方がある事を提示し続けてきました。ですが、今回の展覧会では、「合板（コンパネ）」の規格色である緑と黄色をメディアとして用い、セル・オートマトンのオートマタ理論から着想を得た新たな世界が現れます。LED、シンバル、大型木枠（ポップコーン）などを用いた空間インスタレーションでは、物質・音・光が相互に関係し、時間、運動、状態といった概念が複雑に絡み合います。それはまるで曼荼羅のように多層的で、新たにそこに広がる世界を感じることになるでしょう。

—アーティストコメント—

『ありがとうございます。タイトルを『mapocy』（まばチー）にしようと思います。
『まぶたをポチる』そのフォスフェンダーと、mata + popcorn + cymbal、地図としてのシンバル 等の造語です。
mataは、セル オートマトンのオートマタからで、目を閉じ瞼をポチると網膜に自動生成されるフォスフェン（セルがオートマタで発生）状態、
popcornは、まばチーのフレーム形状、
お送りするデザインの緑と黄色は、popcorn使用材のコンパネ規格色の緑と黄色で、緑が右目、黄色が左目、
まばチー時のマタ状態とともに、シンバルの地図色と音形状も重ねています。psdとjpgです。』
≡Y≡ 2025年夏 談

www.saiart.jp

● プロフィール

≡Y≡

1986年「BOREDOMS」結成。ソニック・ユース、ニルバーナなどと欧米各国のツアー。2007年にはニューヨークで 77 名のドラマーとともに「77 BOA DRUM」、2008年にはロサンゼルスで「88 BOA DRUM」を開催。個人名義では、大友良英のユニット「GROUND ZERO」に参加したほか、ジョン・ゾーン、ビル・ラズウェルなど多数のアーティストと精力的に共演、DJ としても活躍。

2021年映像とセンサーによる新プロジェクトFINALBY()を始動、2025年7月大阪、美園ユニバースの70年の幕を閉じる最終ライブを務める。

アート活動では、BECK の『Midnite Vultures』(1999年) のジャケット・イラスト制作で知られるほか、『NANOO』(1996年)、『ONGALOO』(2006年)などの画集を出版、P.S.1など世界各地の展覧会にも参加。大竹伸朗とのユニット「PUZZLE PUNKS」としても活動している。2019年「パレルゴン：1980年代、90年代の日本の美術」Blum&Poeに参加。主な個展として、2019年「レコーン」BLOCK HOUSE、「UNATAMITLE」HARUKAITO by island、東京など。

「mapocy」

≡YΩの展覧会のために

妄想する。それは、なによりも快楽だ。とりわけ≡YΩの展覧会ともなれば。

工事現場の popcorn と楽器の cymbal、そして緑と黄色の規格色のコンパネの道具立てが与えられたとせよ。そしてそこにセル・オートマトン理論の mata を組み合わせた「mapocy」（まぼチー）と言う造語が生まれ展覧会タイトルなのだというのだから、なおのことだ。

人は≡YΩのことをミュージシャンやアーティストと呼んだりするが、それはどれも居心地がわるい。僕は勝手に「次元の修行者」「次元の道士」なのだと心の中で呼んでいる。

それは 90 年代の初めに、≡YΩと初めて遭遇し（これも、もはや妄想かもしれないが、汐留でのジ・オーブのライブの時に、突然会場で呼び出されて彼はステージに異様に現れ、絶叫を発して去って行った。その姿をはっきり覚えている）、その後、ほとんど追っかけのようにボアのライブに没入し続け（1994 年のカート・コバーンが自殺した年のロラパルーザの時も）、挙げ句の果てには、『NANOO ナヌー』（1996 年リトルモア刊）と、それから 10 年後の『ONGALOO オンガルー』（2006 年リトルモア刊）の 2 冊の出版企画を手がけるようになつたりしたが、彼の名は僕の中では、どんな時も一貫して「次元」の人であり続けている。

その感じは、分かりにくいかもしれないでの、アートっぽい例をあげよう。デュシャンはもちろん現代アートで知らない人はいないと思うが、僕は彼をアートの神様なんかだと崇めたりはしていない。

僕にとっては、彼も「次元」の人だ。デュシャンが面白いのは、四次元というものを時間だと便利な観念を使つたりせず「たとえはナイフ、小さなナイフを握っていると、四方八方からいちどきに感覚が伝わってくることに気がついた。で四次元感覚に可能な限り一番近づくのがこういう場合なんです」と聞き手のトムキンスに届託なく喋っている。確かにこの人は分かっている、信頼できる。

我々は三次元に居るけれど、「彼ら」は高次元ハイディメンションを感覚して、また戻ってくるのだ。それはオカルトや宗教の人もいるが、そんな超越性を使わないで、アートでそれをやってのける「道士」がいるのである。≡YΩも、声も含めた音を通して、ハイディメンショナルなやり口にきづき（ジョン・ケージのようにサイレンスとノイズ、偶然を使って）、こっちに戻って作業することを知ったのだと思う。

そうなると、popcorn は popcorn であっても、もはや popcorn でなくなっているし、cymbal も同じく。いや視覚的な現象やら、人間の細胞レベルから原始やテクノの未来まで全てが別物になる。

しかし、その作業は時には、ヴィジュアルアートや、インスタレーションとして扱われる、それだけの話しなのだ。

僕は 90 年代に、自分が書いたテキストを網羅して本のシリーズにしていたのだけれど、1994 年 5 月 19 日の日付けつきの原稿（「聖ボア」というタイトルでヤマタカアイについて取材したもの）があり、それを超超久しぶりにめくってみると、いかに、≡YΩが冷静な人間であるかがよくわかる（『トランスピランス』1995 年リトルモア刊）。「音楽は見えない世界の波動を拾ってるとこがすごくある」と彼は言っていた。

僕は≡YΩのことは分からぬし、分かろうとしたいとも思わない。ただ、彼が拓く「次元」変換の事件現場に立ち会って、そのシャワーをさらに浴び続けたいだけなのだと思う。

さあ、皆さんもご一緒に。

僕は妄想している。「まぼチー、まぼチー」という無意味なコトバを、うわ言のように唱えながら。

後藤繁雄（編集者 / 京都芸術大学名誉教授）

● 展覧会情報

≡Y≡ solo exhibition “mapocy”

会期 : 2025 年 10 月 9 日 (木) ~ 10 月 29 日 (水)

OPENING RECEPTION : 2025 年 10 月 8 日 (水) 18:00-20:00

会場 : SAI (サイ)

住所 : 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6-20-10 RAYARD MIYASHITA PARK South 3F

時間 : 11:00 - 20:00

電話 : 03-6712-5706

メール : info@saiart.jp

Instagram : [@sai_miyashita](https://www.instagram.com/@sai_miyashita)

協力 : HARUKAITO by island

歌舞伎町 EXPANDED

www.saiart.jp

是非、貴誌・貴社にて御紹介下さいますよう宜しくお願ひいたします。

尚、詳細のお問い合わせ等ございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

SAI 担当 實久 (Sanehisa)

Mobile: 03-6712-5706

Mail: info@saiart.jp